



拝二小だより

～ かけはし ～



昭島市立拝島第二小学校
令和7年12月25日 No.9

エネルギーに満ちて、活動的になる年 <丙午年>

校長 小川 広樹

冬至を過ぎ、いよいよ寒さが厳しくなってきました。保護者、地域の皆様におかれましては御健勝にてお過ごしのことと存じます。

12月6日(月)朝には寒波の影響で気温が下がり、ドーナツ池には薄氷が張りました。空気が乾燥し、インフルエンザなどの感染症の流行により、12月までに学級・学年閉鎖を複数回行いました。まだまだ心配な季節は続きますので、手洗い、うがい、水分補給、歯磨き、咳エチケットなど、感染症対策を万全にお過ごしください。

間もなく、令和8年を迎えます。令和8年は「午(うま)年」です。より正確には、^{えと}干支は「丙午(ひのえうま)」とされます。^{じっかん}十干の「丙(ひのえ)」と十二支の「午(うま)」が組み合わせた「丙午」となります。

どのような意味をもつのでしょうか。

「丙(ひのえ)」は、十干の3番目で「火」の要素をもち、太陽や明るさ、生命のエネルギーを表すとされています。「午(うま)」は、古くから人間とともに生きてきた動物であり、駿足を持ち、独立心が強く、また人を助けてくれる存在でもあります。そのため丙午の年は、「勢いとエネルギーに満ちて、活動的になる」年になると考えられています。

十二支の始まりについては諸説ありますが、1年を通しての天候の流れや季節がまわってくる日にちを計算するために暦が作られたことに遡るようです。古代中国では肉眼で見える惑星のうち、約12年で天球を一周する木星を大切な星だと考えていました。そこから12が時間を測るために用いられるようになり、1年は12ヶ月、1日も12区分の時間で表されてきました。また、木星の位置を示すために天球を12区分し、それぞれに名付けたものが十二支の由来とされます。分かりやすいようにねずみ(子)や牛(丑)、虎(寅)、うさぎ(卯)、龍(辰)、蛇(巳)、馬(午)、羊(未)、猿(申)、鳥(酉)、犬(戌)、猪(亥)の動物名を割り当てました。因みに昼12時を「正午」と読むのは十二支の午のことです。昔の人々の観察力や知恵に感心させられます。

さて、拝島第二小学校の「勢いとエネルギーに満ちて、活動的になる」年は、どんな1年にしていきましょうか。子供たちには新しいことに挑戦し、自ら考え、すすんで行動する年にしてほしいと考えています。そのために教師一同は力を合わせて子供たちに指導・支援をしてまいります。

令和7年を振り返り、令和8年をどんな年にしようか目標を考えさせましょう。「1年の計は元旦にあり」と言います。目標達成のための具体的な行動を積み重ねることが大切です。

令和8年もどうぞよろしくお願いいたします。



おしらせ



の生活目標

「すすんで仕事をしよう」

この目標は、自分の仕事に対してすすんで取り組む態度を育てることをねらいとしています。学校では、当番・係・委員会など様々な仕事があります。その中で、低・中・高学年の発達段階に合わせて工夫しながら、自主的に仕事に取り組ませていきます。そして、達成感を味わわせたり、学級や学校の一員であるという居場所を感じさせたりして、仕事をすることの楽しさや喜びに気付かせていきます。

御家庭でも仕事（お手伝い）はできます。ぜひこの機会に話し合い、お手伝いをさせてください。そして、沢山褒めて家族の一員であることを認めてあげてください。